

仙台YMCA

みつかる。つながる。よくなっていく。

No.341.2022



仙台青年

SENDAI YMCA NEWS



2022年7月20日発行

公益財団法人仙台YMCA
〒980-0822
仙台市青葉区立町9-7
Tel 022-222-7533
Fax 022-222-2952
www.sendai-ymca.org
発行人 / 村井伸夫
編集人 / 松島晃子



Water Safety

自分のいのちを守り、みんなのいのちを大切に

YMCA アクアティックプログラムでは、水上安全教育をとおしてかけがえのない「いのち」を守り育むことを目的に活動しています。子どもたちは成長するにつれ、水との様々な関りを広げていきます。

YMCAでは子どもたちへ水難事故を防ぐために必要な知識を授け、身を守る術を伝えていく事が、私たちの大切な働きであると、考えています。

※日本のYMCAは1880年に東京で始まり、現在では北海道から沖縄まで200を超える拠点で、約14万人の会員とともに活動を行っています。

今年は、例年よりも早く梅雨が明けました。テレビでは、連日、猛暑について放送されますが、この時期は、水場での痛ましい事故も後を絶ちません。全国YMCAでは、水難事故で尊い命が奪われる事がなくなるように『ウォーターセーフティーキャンペーン』を行っています。仙台YMCAでは、仙台市教育委員会より後援をいただき、全国YMCAで作成した「ウォーターセーフティーハンドブック」を仙台市の小学1年生を中心に配布しています。海や川、湖やプール、様々な場所で活動する際の注意点や、もし事故が起こった時の対処法などを記載したハンドブックです。



2022年度版
ウォーターセーフティーハンドブック



また、毎年、仙台YMCAの各保育園と仙台YMCA幼稚園の園児を対象に着衣泳講習会も実施しています。川や湖で溺れる事故は衣服を着用している時に起こることが多く、突然水に落ちるとパニックになり、同時に水を含んだ服の重さによって状況を悪化させ、溺れる原因になっています。YMCAの着衣泳指導では、「衣服を着たまま水の中に入るとどうなるか？」を実際に体験してもらい、『動きづらくなる』『服が重くなる』『肌にまとわりつく』などの認識を子どもたち自身に体感してもらうことを目的としています。YMCAジュニアクラブではレギュラー（通年）クラスでスイミングを行っています。指導の中で水上安全につながる練習を取り入れています。

また、夏休み前には短い時間ではありますが、水上安全講習を実施しました。危険なところには近づかない、海や川、プールなど水辺での活動では大人と共に行動すること、溺れている人を見つけた時には、自分で助けに行かず、大人に助けを求めることなど、自らの命を守るために大切なことを伝えています。大切なことは、子どもだけで水場に行かないこと。水に落ちないことです。保護者の皆様、夏本番を迎えるにあたり、改めてお子様と一緒にウォーターセーフティーハンドブックに目を通していただき、水の事故に遭わないようにお過ごし下さい。これからもYMCAでは、アクアティックプログラムを通して、命を守る術を身につけて欲しいと願いながら活動を行っています。



ウォーターセーフティーハンドブックにはいのちを守るための水上安全の知識がたくさん詰まっています！

(報告：健康教育事業部 増山和憲)

8/26まで

第2次 ウクライナ緊急支援募金



この度、第1次ウクライナ緊急支援募金につづき第2次ウクライナ緊急支援募金を実施する運びとなり、緊急支援募金へのご協力を再度お願い申し上げます。

第1次ウクライナ緊急支援募金実施の折には、皆様からの温かいご支援をいただき仙台YMCAへ523,478円の募金をお預かりすることができました。

こちらの募金は4月末に全額日本YMCA同盟に送金させていただき、4月末までに全国のYMCA及び企業団体様から寄せられた募金額は20,138,472円となったことが日本YMCA同盟から報告がございました。あらためてウクライナ緊急支援募金へのご協力に感謝申し上げます。この緊急支援募金は、ウクライナから日本に避難するための渡航費用や日本での生活支援及びヨーロッパYMCA同盟、ウクライナYMCAと連携しウクライナ国内外に避難している人々の衣食住の支援やそれらの支援活動を支えているボランティアの食事の支援などに充てられています。未だロシアとウクライナの紛争は続いております。ウクライナ避難者も増え続けております。私たちYMCAは皆様からのお力をお借りしつつ、ウクライナ避難者への支援を続けてまいりますので、どうか緊急支援募金へのご理解とご協力をお願いいたします。

「第28回仙台Y M C Aインターナショナル・チャリティーラン開催を願って」

実行委員担当職員：佐竹 辰太郎（NPO法人仙台Y M C Aファミリーセンター）

Y M C Aインターナショナル・チャリティーランは、障がいのある子どもたちを支援するとともに、「障がい」への社会的な理解と関心を高めることを目的とした大会です。現在は、Y M C Aインターナショナル・チャリティーランとして、全国21カ所に広がり、「LOVE ON THE RUN」をスローガンに、コロナ以前（2019年度）までは年間1万2千人以上のみなさまにランナーやボランティアとして参加していただいていたました。

チャリティーランへの参加費やご寄附は、Y M C Aが全国で展開する「子どもたちの支援プログラム」に充当させていただいています。

仙台Y M C Aでは、コロナウィルスの影響で、2年連続中止となり、参加を楽しみにしていた方々には大変残念な思いをさせていただきました。

今年は、9月23日(金・祝)に聖和学園短期大学の会場をお借りして「実施する」方向で準備を進めております。もちろん、コロナの対策を十分に検討しながら、3密を避ける事、例年の形式にこだわらず、参加人数を減らし、時間を短くしての開催を計画しております。

仙台Y M C Aでも初めての試みになる為、実行委員会の皆さんと知恵を絞り、安全に・楽しく実施できるように考えを巡らせておりますが、ここ2年実施出来ていないため、チャリティーランを1度も経験していない職員もおります。新しいスタイルを模索しながら、チャリティーランを楽しみにしている方々に良いものを提供できればと考えております。9月23日のチャリティーラン開催まで、コロナウィルスの影響が減り、少しでも明るい大会になることを祈っております。



Report

NPO法人仙台Y M C Aファミリーセンター

～NPO法人仙台YMCAファミリーセンター職員研修報告～

富沢児童館 郷古 祐子

保育士や児童厚生員は、男性職員が増えてきたものの、全国的に見れば、未だに9割が女性というのが現状です。男性職員が現場で抱えている悩みも増えてきていること、職員が共に働く上で大切なことを見つけるということをねらいに、聖和短大の山本信先生を講師に迎え「男性職員研修」「女性職員研修」をそれぞれ行いました。

女性研修では、男性研修の内容を女性が学ぶという新しい形の研修でした。「保育者と男性保育者～何が同じで、何が違うのか～」 「子どもとの理想の距離感」というテーマでお話しいただきました。男性保育士が少ない時代に保育の現場を経験されていた山本先生。保護者からの偏見を持たれやすいことや女性職員・子どもとの距離感に悩むことが多々あったこととお話しいただきました。グループワークでは、仕事の場面を振り返りながら、男性は職場の中で言いにくいことが多くあったのではないかと話題もあがりました。「気を付ける人」から「気が付く人」になる必要があることを教えていただきました。1週間後に行われた男性研修。「児童期における『ころ』の発達と『かわり』の変化について」というテーマで行われました。そして後半は座談会。男性職員が一堂に会する機会はなかなか無いことです。施設を越えて話をすることは、悩みを共有したり、多様な考え方に触れることのできる貴重な時間でした。山本先生のまとめのお話では、「男性だからできること」「大人だからできること」そして「自分だからできること」を見つけていくことの大切さ、自分に求められていることを感じながら仕事と向き合うことは、難しさであり、やりがいのあることだと教えていただきました。

「学ぶ姿勢」はそれぞれに違いがあると思います。それぞれに認め合い、私たちの働きが「ポジティブネット」のある豊かな社会へとつながることを目指していきたいと思っています。



「オープンキャンパスのボランティアから学ぶこと」 ホテル科2年 伊藤 香澄

私は、学校のオープンキャンパスのボランティアをしています。

1年生の秋に、オープンキャンパスのボランティアをしたのをきっかけに、2年生になってからも続けています。宮城県以外の東北地方から来て下さる高校生もいる中で、少しでも多く、学校の様子や雰囲気を感じ取ってもらえるように頑張っています。私が高校生の時に「どんな気持ちで」「何のために」オープンキャンパスに参加していたかを思い出しながら、高校生に寄り添えるようにサポートしています。親御さんと来てくれる高校生もいるので私も緊張しますが、一つ一つの確に丁寧に受け答えをしたり、その経験が自分がホテルで働くにあたっての接客の仕方や、対応にも繋がると前向きに考えて参加しています。オープンキャンパスのボランティアで自分の接客度に磨きをかけ、新たな課題とも出会えます。その課題を次のオープンキャンパスではどのように対応したいかを考えて、自分なりに改善しています。オープンキャンパスの流れには慣れましたが、慣れたからこそ頭の中で「こんな風にサポートできたらな」「こんな風に感じ取って欲しいな」と考え頭の中でシュミレーションをしています。シュミレーションをしておくことで、簡単な事だけでなく応用したような受け答え方や、対応の仕方を発見することが出来たり、上手く伝えることが出来ます。そういった瞬間がとても嬉しいです。体験授業やカフェタイムを通して、緊張していた高校生が少しずつ緊張がほぐれ、私に向けて質問や、自分自身の事を話してくれるようになる瞬間に達成感を感じます。私が高校生の時、オープンキャンパスでボランティアとしてサポートしてくれたYMCAの先輩や、1年生の時一緒にオープンキャンパスのボランティアをした先輩から、サポートの仕方を見て学んだ事も多くあります。見て学んだことを自分にも取り入れ、吸収し、それをこれからのオープンキャンパスをサポートする後輩にも伝えられるようにこれからも頑張りたいと思います。



一般会員・サポート会員を 随時募集中です

ぜひ会員として、
仙台YMCAの活動をお支えください
お問い合わせ:本部事務局
TEL:022-222-7634
FAX:022-222-2952



2022年9月23日(祝)
場所: 聖和学園短期大学
仙台市泉区南中山5丁目5-2

仙台YMCAチャリティーランは今年で28回目を迎えました。この大会は、心身に障がいのある子どもたちを支援し、同時にこの活動を通して、「真に豊かな社会」への関心が高まることを願うものです。大会は全てボランティアによって運営され、収益金は全額支援金として用いられます。

維持会費

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

◆一般会員

維持会員A

油谷 重雄 さん
野村 宏さん
工藤 悦子 さん
岡 久雄 さん

◆サポート会員

協力会員

青木 満里恵 さん
石田 信正 さん
大林 健太郎 さん
阿部 かよ子 さん
山田 和佳子 さん

日野 峻 さん
小笠原 均 さん
遠藤 元気 さん
木村 純 さん
千葉 徳正 さん
平井 順子 さん

林 昭宏 さん
石川 光晴 さん
木村 孝禅 さん
櫻井 美智江 さん
関川 祐一郎 さん

(6月24日～7月14日)

仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に伝えあう喜びの輪を拡げます。

子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。